
異世界我龍転生記

能の無い鷹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

異世界我龍転生記

【Nコード】

N6063K

【作者名】

能の無い鷹

【あらすじ】

テンプレな感じで異世界に逝った、特に才能も無い主人公。しかし転生してなったのは龍。チートな種族。そんなこんなで、色々やらかすかもしれない物語。そして作者の自己満足の物語「作者のハートは脆いです。批判するときはオブラートに包んでください」

テンプレな使い古されたプロローグ（前書き）

初めての方は初めまして。

作者を知っている方は・・・もはや何も言っまい。

こんな作者だと思って諦める方がいい。

さて、この作品は作者が好き勝手やる為に書くため、非常に不定期更新で、内容もよいとは保証できません。

それでもよかったら、どうぞ。

テンプレな使い古されたプロローグ

目覚めたら、異世界だった。

ここまでは良くあるだろう。車に轢かれるとか誰かを庇って死ぬとか神に会うとか行程は色々だろうけど。

目覚めたら、龍、ドラゴンになってた。

ま、まあこれも無くはない話だろう。人化できるとかそういう能力付きで。

——あくまで小説とか空想の中の話だが

だが、何の因果か俺は現にこうして龍になって異世界にいる。

正確には、高校から自宅へ帰宅途中にトラックに轢かれ目が覚めた
ら卵から孵ったばかりの龍になった。

テンプレである。テンプレ乙。

俺は、こういうオリジナルな異世界よりも二次元的（アニメとか漫画とか小説とか）な異世界に逝きたかった。

原作知識がいかせたりするかもしれないからだ。

最初はハンターな狩人がモンスターを狩りまくる世界に來たかと思
ったが、自分の母親（本能的に分かった）を見てこれは無いなと悟
った。

だって、明らかにモン　ンに出てくるモンスターと違っんだもん。

知らないモンスターという事も考えたが、これは無い。

母さん、どっからどう見ても人だもん。

龍だけど人型にもなれます、的な可能性もかなり高いけど、そこま
で違うのにモ ハンな世界だと言えるはずも無い。

そんなこんなでオリジナル異世界に来たわけだが、良くある主人公
みたいに武術習ってたとかそういうの全くない。

勉強は趣味も兼ねてたせいか悪くはなかったが、所詮凡人の域であ
る。天才には天と地ほどの差がある。

龍に転生したので関係ない気もするが、母さんは人型だったし、龍
の頭がチート並でもない限り、凡人、いや凡龍のままである。

せっかくファンタジーな世界に生まれ変わったのだから、色々やりたい。

さて、どうしよう。

テンプレな使い古されたブローグ（後書き）

反省はしてるし後悔もしてるし懺悔もしてる。

続きは書くけど。

美しい母さんはスパルタだった（前書き）

これからどうなるんだろう。

美しい母さんはスパルタだった

よお、俺だ。

いきなりでなんだが、母さんが恐育ママなんだ。

俺がこれからどうしようって考えてたときに、いきなり俺を崖から突き落としかけたんだ。痛かったです。人間だったら死んでると思います。そういう事を考える余裕がある程度には大丈夫だけど。

よくわからないと思うが、俺の家、巢は崖の上というか、断崖絶壁にあるんだ。景色が凄くいい。

まあそんな事はどうでもよくて、母さんが俺を突き落とした後、何か会話？テレパシー？みたいなものを使って最初の試練をお伝えになりました。

『わたしの所まで登ってきなさい。這い上がってきなさい。それがあなたの最初の試練』

試練って何ですか？最初ってことは他にもあるんですか？と色々疑問はわくんだが今重要なのはこれ『わたしの所まで登ってきなさい』

だ。

つまり俺は卵から孵って5分も経たないうちに、崖を昇らなきゃいけないわけだ。名前すらつけてもらってないのに。つける習慣があるかどうかは別として。

しかも龍だぞ？器用じゃないんだぞ？どうやって登れって言っただあれか？この背中にある翼で飛べって言うのか？

幸い腹は減っていない。まずは自分がどのくらいの能力を持っているか確認しよう。

とりあえず思いっきり走ってみる。崖の下は浅く広い川が流れていて、すぐに曲がらなきゃいけないとかそういう事にはならない。

走る、はやっ！ズテン！ごろごろ、うわーん。

どうやら身体を動かす練習から始める必要があるみたいです。能力を把握せねば。

そつえば、自分はどんな感じなんだろう。もちろん容姿的な意味で。

水を鏡代わりに見てみる。

全体的に黒いというか、青みがかかった黒。目は赤。なんかよくありそうな色合い。かっこいいけど。

なんか如何にも幼龍って感じで、身体が幼い。大きさは2m?くらい?翼はでかい。身体の半分くらいある。

足は4本。立ち方はモンハの古龍をイメージしてくればわかると思う。つまり犬。尻尾ももちろんある。これと翼でバランスをとってるっぽい。

ついでに母さん。白い髪で、さらさらしてそう。肌も白い。身長はたぶん160後半くらい。身体にメリハリがある。めっちゃ美人。

清楚な感じで白いローブを着てた。しかし恐育ママ。恐いです。早くも恐怖心が生まれています。美人だけど。

さて、色々試してみますか。

—————ただいま身体測定中—————

どうやら龍はチートだったらしい。龍の中では普通だろうけど。

まず、走るのめっちゃ速い。高速道路で速度違反してる車より速い。新幹線と並走できそうなくらい。まだ転びそうになるけど。

筋力、幼龍ですか？これで。高近くにあった大きめの岩に猫パンチしてみたら、砕けた。岩が。

あと、飛べた。凄い簡単に飛べた。こう、身体が覚えてるというか、とにかくできた。

プレスとか雷とかそういうのはまた今度にしました。今は崖を登るのに関係のある事をするのだ。

よし！これで崖を登る事が出来る！

そう思ってた頃が俺にもありました。

結果から言つと駄目でした。飛ぶのってかなり疲れる。体力持ちません。

考え無しに飛んだら半分くらい行った所で体力つききました。翼つりました。落ちました。痛かったです、まる。

何かいい案は無いものか。

そうだ！助走をつけよう！

休憩した後実行。

つけてみた。結果。助走無しよりも上に行けた。少しだけ。

助走の他にも何か考えなければ。

そうだ！壁を走ろう！今の身体能力だったら！

休憩後実行。

走ってみた。最初は行けた。途中から落ちそうになった。なんか閃いたのでその途中で飛んでみた。

結果、惜しい！後少し。崖のふちが見えた！

……岩を砕く筋力の龍が思いっきり踏みしめても大して傷つかない崖の強度って。いや、考えてはならない。

後少しだ！落下の痛みにも慣れてきた。これが快感になる前には崖の上に行く。絶対に行く。

なにか……ないか。

龍って結構長時間飛びイメージがあるんだよね。こう全身でばっさばっさと。

全身。そういえば運動でよく全身を使ってやるとかなんとか言ってたな。

少し練習してみるか。

バサッバサッ

・・・なんか違うな、こうか？

ヴァサッ！ヴァサッ！

おお！なんかそれっぽい。これで行こう。

まず助走。

次に壁を走る。

限界まで登ったら全身を使って飛ぶ！

結果、いけたーーーー！！！！

やっかついた。疲れた。

母さんも喜んで・・・・・・何ですかその笑みは。

なんでそんなに嬉しそうなんですか？いや嬉しいと思ってくれるのはいいんだけど。

そのサディスティックでバイオレンスな笑みは何ですか？

『良く成し遂げましたね。今は休みなさい』

そうですね。あくまで今は休みなさいですか。続きがあるんですか。

そりゃ分かったけどさ。最初の試練だし。

とりあえず、休むか。

恐育ママ

あら、すぐに寝ちゃいましたね。

まああの崖を登るのは幼いあの子にはかなりきついですけど。

だけどもさか半日も経たずに登ってくるなんて。普通は一日以上かかるものなんですけど。

それに頭も良さそうだし。

これは鍛えがいがありますね♪

次の試練も頑張ってもらいましょうか。

なんせ、この試練は108回の試練が5セットあるんですから。

あの子が立派な龍になるためにも、頑張ってもらいましょう！

美しい母さんはスパルタだった（後書き）

感想とかアドバイスとか評価とかくれると嬉しいな。

無くて継続けどね？

母さん、いきなり洞窟ですか？ P a r t 1（前書き）

もつとつにでもなれ。

短いのは気にしちゃいけません。作者には長いのも無理です。

母さん、いきなり洞窟ですか？ Part 1

どうやら最初の試練は序の口だったようです。いや本当に。

もう、ゴールしてもいいよね？

ゴール。

「あははははははは……はあ」

母さん鬼。鬼畜。もはや恐育のレベルを超えてるよ。

俺は最初の試練の後、疲れて爆睡し、目が覚めたときには辺りは真っ暗になってた。

ちなみに俺が卵から孵った時が早朝ね。

辺りが真っ暗になってたのはいいんだ。ただ、その真っ暗は自然なものではなかった。

まあ分かりやすく言うと。

なんで起きたら洞窟の中に閉じ込められてるんですか!?

明かりも何も無い真っ暗な洞窟に閉じ込められてました。

それに、第六感が明らかに友好的じゃない生物の存在を伝えていきます。

どうしてこうなった。

『次は2から10までの試練を一気にやります』

.....。

『では、説明しますね。良く聞くように』

.....はい。

『宜しい。この洞窟でやる試練は9つあります。暗闇での行動に慣れる、狭い場所での移動、獲物を素早く捕まえる、ブレスの習得、爪や尻尾での戦い方、自分より大きい敵との戦い方、小さい敵との戦い方、そして最後にこの洞窟からの脱出です。脱出するまでに自然に全てこなす事になります』

・・・・・・多いです。

『あなたなら出来ます。わたしの息子ですから』

その言葉は涙が出るほど嬉しいけど、量は変わりません。

『終わったら、お散歩の許可を出しますから』

お散歩？

『巢の周りを自由に散策してもよいという事です』

・・・・・・少しやる気でした。

『少しですか？母さんは悲しいです』

スゴくやる気でした。

『ん。母さんは嬉しいです。では、頑張りなさい』

はい。

母さんに勝つのは無理のようです。ありとあらゆる意味で。

さて、行動しない限り状況は何も変わらない。

嬉しい事に暗闇でも妙に地形が分かる。一つ目は簡単だ。

問題は2つ目以降なんだが、狭い場所での移動って何だ？

いや意味はわかるよ？狭い場所での移動って普通の移動するだけじゃ駄目なの？

考えても仕方ないか。行こう。

というわけで進んでみたのだが、やっと意味が分かった。

狭い場所でこの身体、移動がかなりゆっくりになる。

要するにこの試練、というより訓練は狭い場所でもスムーズに移動する事を身につけるものだと思う。

感覚さえつかめば身体が成長しても大丈夫だろうし。

障害物、鍾乳石とか突き出た岩とかの位置は分かるんだよ。

分かっていてもこう身体が大きいと（まだそんなに大きいとも言えないが）いちいち止まってしまうのだ。

どうするか、俺はもう答えを出している。

無視すればいい。細く飛び出た鍾乳石など、横に突き出た岩など、無視してしまえばいい。

今の俺は龍だ。チート種族。身体を覆っている鱗も固い。

洞窟に影響を与えそうな大きいもの以外は無視して碎いてしまえばいい。

これが答えという確信は無いが、これ以外には特に思い浮かばない。アイシールドな21じゃあるまいし、あんなすさまじい避け方無理だ。

さて、突進だ！

・・・・・・なんかいました。はい。

作戦通りにやばそうなもの以外は無視して突進で碎いてきたんだが、狭い所を抜けたら第六感がビビビツときた。

なんかいるらしい。

慎重に進んでいくとそこには、俺と同じくらいの大きさの狼っぽいのがいた。2匹。

これが獲物？母さん無理だよ。こんな凶暴そうなの逆に俺が喰われ

るよ。

しかし心ではそう言っているがなんか余裕を保っている俺。

これは感だが、龍にとってだいたいの生物は獲物、格下でしかないんじゃないのか？

それなら納得できる。そしてこれを利用しよう。恐怖でガチガチになるよかまだ。

よし、まずはこちらに近い方に狙いを定める。

気分は　ンハンのナ　ガさん。暗闇から一気に襲いかかる。ここら一帯は殆ど暗いから気分だけだけど。

相手がこちらに後ろを見せた瞬間・・・・・・・・狩る！

狼はこちらに気付く事無く俺の手にかかった。具体的には爪で、こうグサツと。

だが今は悠長にそんな事考えてる暇は無い。もう一体がこちらに気付いている。

相手が様子を見てる間に、後ろ足に力を込め、相手がこちらへ飛び掛かろうと微弱な隙を見せた瞬間、飛び掛かる。自分の体重で押さえ込む。

普通ならそんな隙には気付かないだろうが、そこはチート種族の龍である。本能で分かる。

殺った。

ふう、疲れた。精神的に。身体は余裕です。

自分の狩った獲物を見つめる。よだれが……獲物は獲物らしい。

食って、みるか。

おそろおそろ一口。

食べた瞬間、爆発した。なにが？本能が。

恐ろしい勢いでついさっきまで生きていたものを食べる。

嫌悪感を感じない。むしろそれが当然と思ってしまっ。

いちいち気にしてたら心が保たないからそれはよかった。

あっという間に食べ尽くし、骨すら残っていない。龍の消化器官はスゴいらしい。

生まれて初めての食事。生まれて初めての獲物。

この洞窟ではまだ半分も行っていないが、今の俺はとても充実していた。

母さん、いきなり洞窟ですか？ P a r t 1（後書き）

感想とか書かない？更新速度が上方修正されるよ？

母さん、いきなり洞窟ですか？ P a r t 2（前書き）

こんなに更新速いのもそろそろ終了。

母さん、いきなり洞窟ですか？ Part 2

の、喉が痛い……。

母さん、俺もう無理っす。

恐育ママの試練、2から4までをクリアした俺だ。名前はまだ無い。ちなみに転生前の名前は架透蒼姫だ。この厨二で明らかに女の名前には悩まされたもんだ。いじめられた事もあったな……。いやいやいや。今は昔の事なんて気にしている場合じゃない。

ふう、これから後半分以上あると思うと気が重くなる。俺のライフはもうゼロだ。精神的な方だけだ。

ついさっき獲物を食って無駄に多い体力をだめ押しのごとく回復したわけだが、もし順番通りだとすると次の試練はプレスだ。

どんなふうにブレスを吐くんだろ。これも本能でやるのか？というかすごい疲れそう。

と色々思っが、まあものは試しだ。少しやってみよう。

イメージ。

目を瞑り、自分の口からリオ　ウスのごとくブレスを吐く姿を想像する。

そして、後は本能に任せる。

口から何かが出て行ったと思ったら、いきなり轟音に襲われた。すぐに何が起きたのかを探る。

自分の向いてる方向にある大岩、それも崩したらあかんやろーとか思えない洞窟を支えているもの、が粉々。

妙な音が聞こえる。洞窟が微妙に振動している。パラパラという音が聞こえる。

これは、やばい。うん。すごくやばい。

天井から最初の落石がきた瞬間、俺は本気で洞窟を駆け抜けていく。

無論、来た方向とは違う方にだが。

はあ、はあ、はあ（心の息切れ）

危なかったー。冗談抜きで死ぬかと思った。

どうしてこうなったんだ？

えーっと、確か俺がブレスの練習して、それっぽい出したと思ったら、口から直線上にある岩が崩れて、洞窟も崩れた。

……今度から屋内でブレス吐くのやめよう。危険だ。

それにしても本当に助かった。本気で走った甲斐があった。

何があったのかを詳しく言うと、崩れだしたと同時に駆け出して、ノンストップで走ってたんだけど、通路のような場所からいきなり崩れていない大広間に出て、これは助かったかな？と思ったらすごい勢いで崩れだして、出口に向かって走って、落石に塞がれる直前に一塁に突っ込むバッターの如くダイブしてなんとか部屋から出れて一命を取り留めたというわけだ。長いな。

とにかく、結果的にはブレスは出来た。つまりクリア。次に行こう。

……だけど、洞窟結構崩しちゃったんだけどいいのかな？

大丈夫かな、母さん。

『問題ありません。続けてください』

さいですか。了解です。

とにかく進むか、通路。いかにも洞窟って感じの通路。

確か次は爪や尻尾での戦い方だったな。また戦いか。

爪はさつき出来たからいいとして、尻尾かな。

やっぱりサマーソルトとかできた方がいいのだろうか。いやそれとも一般的な振り回しか？

試すほか無いか。

それにしても母さん、よくこんなに都合のいい洞窟見つけたな。

『それは母さんもびっくりでした』

母さんもびっくりだったのか。

お、第六感がテキキンと反応した。いるな。この先の大きい広間からだ。

死角から様子をうかがってみる。そういえばさつきから妙な音が聞こえてたな。

・・・・・・・・す、すごく、大きいです。

大きさは、俺の五倍くらい、つまり10メートルの、鳥。

姿はダイ ブレイドとか想像すると分かりやすいかも。

どうやら自分より大きい敵との戦い方も混じってるらしい。

これを倒せと。生まれて一週間も経ってない俺に？

なんてこった。神は死んだ。

それでも余裕な俺。龍はどれだけチートなんだ。

俺は才能無いから、龍はみんなこんな事が出来る・・・・・・・・やべ
ー！。

まあ余裕があるのはいい事だ。

さてと、どうする？俺。相手は飛んでるぞ？

【サマーソルトとか――】

よしやろう。リオ イアさんだ。

ぶつつけ本番。手順は至って単純明快。

走りながら近づいて飛ぶ。その勢いでサマーソルト！――！

ok。やろっぜい。

先程考えた手順のとおり、走りながら近づく。気付かれたが気にしないで、次に移る。即ち、飛ぶ。

飛んでスピードが乗ったまま突撃。敵にぶつかる直前に空中で後転。

尻尾を、思い切り、叩き付ける！

「グギヤアアアアアア！」

成功、しかし敵はまだ死んでない。どんだけタフなんだ。

糞つたれ、こうなったら本能の赴くままに！

墜落した敵にのしかかり、首をくわえて、プレス！

うわーお。即死。これで死なない奴いたら見てみたい。

洞窟に影響は無いみたいだ。助かった。

それにしても、首から上が無いよ。首から下は炭化してる。強つ。

これじゃあ食えないな……。は！

何を言ってるんだ俺。そんなに食い意地がはった奴じゃないぞ！

何だ？その目は。本当だからな！

・・・何をやってるんだ俺は。次だ次。

次は確か自分より小さな「ブウウウウン」いるな。小さい奴。

出てきたのは俺より小さい、たぶん１メートルも無い、それでも大きいと感じる、蜂。

どうみてもランゴ　タです本当に有り難うございました。

完全に敵意を持っていますねー確かに敵ですけどー。

牽制しとくか。倒せたら儲け物。

尻尾に届く範囲まで近づいて振り回す。

あたりません。期待はしてないけど。

どうする？といったってな。適当にやるしかない。

適当にやってみた結果がこれだよ！

当たらない。全っ然当たらない！うざい！

なんだこいつ。能力までラゴスタか。

尻尾振り回したり爪で引っ掻きまくったりしたが全て紙一重で避けられる。

尻尾は器用に動かせないし爪はそこまで長くないからな。

なので考えました俺。牽制しながら。

ありましたよ。俺って天才。

モンハをやっているとき誰もがうざいと感じた事のある、風圧！

これを使えば宜しい！

羽で飛んでる限り風の影響は絶対に受ける。これを利用しない手は無い。

ランゴもどきの近くで力強く羽ばたく。風に流されて制御を失った

奴に急いで近づいて一閃。

爪で切り裂いた。

よっしゃあああああああ！！！！

やっと倒せた！

ハンターの気持ちがわかったぜ。

これで試練は後一つ、脱出だ！

テンションを上げまくりながら洞窟を突き進む。敵は突き飛ばす。

そんなこんなで十分くらい爆走してると行き止まりまできて脳天を壁にぶつけた。

いてて。出口はこっちじゃないのか？

と、よくみると崩れた岩やら何やらで塞がれた跡。かすかに差し込む光。

どうやら崩してしまったようだ。

しかしこれは簡単だ。

吹き飛ばせばいい。全部まとめてプレスで。

塞がれた出口をにらみ、口にナニ力をためるためるためるためるた

めるためるためる。

そのためた力を、解き放つ！

爆音。

すさまじい閃光。

収束されたエネルギーが出口を求めて壁にぶつかる。

そんな力に抵抗できるはずも無く、出口を塞いでいた壁は砕けちり、消え去った。

だがそれだけでは収まらず、そのまま何も無い空間を突き抜け、天へ。

全てを出し切ったときには雲はプレスにより見える範囲から全て押し出されていた。

さすがにこれは疲れた。やりすぎた感が否めない。

喉が痛い。

母さん、終わったよ。

『はい、よくやりました。母さんはとても嬉しいです』

そうですか。それはよかった……

ゴール。

恐育ママ

あらあら、今回も寝ちゃいましたか。

……それにしてもこの子は底が知れない。

最低でも二日はかかると思っていたのに。

無意識のようですが念話までしていた。

さすがわたしの息子。

さて、洞窟の出口で寝させるなんて駄目です。

転移させておきましょう。

……寝顔が可愛い。

母さん、いきなり洞窟ですか？ Part 2（後書き）

軽く設定。

龍の本能は任せれば一生生きていきます。理性が無いですけど。

本能には生きる為のすべてが刻み込まれていて、龍は生まれながらに本能を使いこなす事が出来る。

蒼姫くんはそれをイメージという形でやっています。

意味不明だがそんな感じ。

感想が速くも三件。有り難うございます！

はじめてのおさんぽ いち（前書き）

説明回。

短めです。

早くも総合100突破！

アクセスもPVが9000、ユニークが2000！

本当に有り難うございます！

はじめてのおさんぽ いち

おさんぽ……不思議な響きだ。

さて、皆さん。おはよう。

きれいだけど恐育ママな母さんにごつてりしぼられた俺だ。

知ってるか？俺、生まれて三日も経ってないんだ。名前も無いんだぜ。

いくら龍がチート種族でもアレは無いと思うんだ。生まれてすぐ崖から突き落とすとか、疲れて寝たらいつの間にか洞窟の中で脱出しろとか。

はあ。

それはそうと、今日は休みの日なんだ。

母さんが『今日は自由にいいですよ』と言っていたからな。

それにお散歩の許可も貰ったから巢の周りを自由に散策できる。

もう色々と限界を感じてたから助かった。これで今日も試練があったら・・・・・・・・

あ、あと、母さんに試練がいくつあるか聞いてみたんだ。

すると『別にいいですけど、本当にそれで良いのですか？絶対に後悔しますよ？』と言われたんだ。

恐怖心もあつたが、好奇心が勝り、聞いてしまったんだ。恐るべき事実を。

俺はさあ。百個ぐらいかなと思っていたんだ。けどな。それを甘いい、甘すぎる考えだった。

『108個の試練が5セットありますよ』

なんだよ108個つて。5セットという事は540個。今クリアしてあるのは10個。残り530個。

ありえない。それになんだよ最後の♪は。

母さん。俺は甘やかし過ぎはよくないとは思っけど厳しすぎもよくないと思うんだ。

俺、いつか死ぬぞ？

・・・休日なのにわざわざ鬱になる必要は無い。今日は試練の事は忘れて楽しもう。

さーてーと。

母さん。俺、散歩してくるよ。

『はい。あまり遅くならないようにしてくださいね』

はい。

『では、いつてらっしゃい』

いつてきます。

というわけでお散歩へGOなのだが、巣の周りについて少し説明しよう。

あ、その前に巣について説明しよう。

巣は大きく直径20〜30メートルくらいあり、俺の卵の殻がある

のはその中心。つまり俺は巢の中心で生まれた。

巢と言ってもそれらしいのは中心部分だけ。他は全く違う。

北側は木で作られた机と椅子があり、母さんはだいたいそこに座っている。

東側は特に何も無い。ちなみに俺が落とされたのはこっちの方。

西側は家？に似たものがある。簡易な木で作られた小屋だ。寝る時はそこで寝る。

小屋の中は寝るときのベッド（これも簡易なもの）が2つ、あとはよくわからない骨董品置き場。隅には階段があるが、まだ俺は降りた事が無いので分からない。

南側は武具、剣や槍、鎧や盾などが無造作に置いてある。明らかに高そうなものがあるんですが………母さん。

こんな感じだ。それと、巢には天井が無いので風が吹いたり雨が降ったりしたらやばいんじゃないのかと思ったが、そんな事は無かった。

まず、巢が雲より高い位置にある。次になんかよく分からないが無風だ。こればかりは理解できない。

気温は特に寒いと感じた事はない。この高さだし寒いと思うのだが、龍は大丈夫なのだ。

次は巢の周り。

北から東側は俺が落とされた場所と一緒に、というか同じで、浅く広い川が広がっている。その奥は明るい緑の草原。さらに奥の方には山が連なっている。

南から西側は何処の熱帯だよというほどのジャングルが一面に広がっていて、その合間合間に緑に覆われた巨大な岩が突き出ている。

長くなり過ぎた説明はこのくらいにして、散歩だ。

よし、行こう。

はじめてのおさんぽ いち（後書き）

はい、説明ばっかでした。死ねよ自分。

すいません。これ以上集中力が続かなかったのです。

気にしてなかったら別に良いんですが、蒼姫くんの無意識念話がかつことかつけた方が良いでしょうか？特に無いんだったら蒼姫くんが意識してやるまでこのままです。

感想評価アドバイス、何でもまっています！

はじめてのおさんぽ に(前書き)

ごめんなさいごめんなさいごめんなさい。

毎日投稿目指してたのにごめんなさい。

内容が意味不明になってごめんなさい。

短くてごめんなさい。

言っのが遅iiiiiiiiiiiiiiiiiiii!!!

なんて事があつたとか無かつたとか………ありがとうございましたごめんなさい。

今俺は草原の端、山との境界の近くにいる。あー痛かった。

ただのお散歩のはずがなんでこんな痛い目に遭わなければいけないのだろう。

今更か。今更だね、うん。

それにしてもきれいな景色だな。

草原は鮮やかなライトグリーン。山は青みがかかったグレー。

俺の巣がある崖は黒、その前を通る川は明るいブルー。

そして俺は青みのかかった黒。

この世界はたまに目が痛くなる。目に映るもの全てが美しい。

これ見てから地球見ると見劣りしまくるな。

・・・地球、か。

こっちに来てからは比較の対象にはしたけど特に考えてみた事もなかったな。

家族、友人。彼らは死んだ、いや、いなくなった俺の事を心配してくれるのだろうか。

父は才能の無い俺をいつも疎んで、暴力を振るっていた。

母は俺が原因の父からのとばかりから逃げていた。

妹は家族の仲が険悪な理由であり、諸悪の根源である俺を好きあらば殺そうとするくらい憎んでいた。

友人は才能の無い俺を見下す事で自分を保っていた。

果たして、心配してくれるのだろうか。

父は子供の頃はいつも優しかった。

母は俺の世話を甲斐甲斐しくしてくれた。

妹は俺にくつついて離れなかった。

友人は俺の事を最高の親友だと言ってくれた。

すべてが変わった原因は俺。

彼らは俺の事を好きだった。愛してくれた。

それはいなくなる直前も変わってはいないだろう。

変わってはいない。歪んだだけ。

俺が天才である事を望んだ世界、その世界で才能の無い俺は異物、要らないもの。

才能があればここまでおかしくはならなかった。

才能があれば家族や友人はストレートに愛情表現を出来ていたのか
もしれない。

だが所詮それはあり得ない、IFの話。

はあ、もう考えないようにしてたのに。

周りが変わってしまった後、俺は努力したんだよな。

運動神経は絶望的なまでに無かったけど、勉強はそこそままで上がった。

でも、もう変わってしまった、牙を剥いた世界での俺の扱いは変わらない。さらに酷くなっていく始末。

あげくの果てに、こんな異世界の龍に転生している。

・・・環境が変わってから初めて心に余裕ができたからなのか。こんな事を考えてしまったのは。

全く、せつかくのお散歩なのになぜここまで沈まなければならないんだ。

試練で死ぬ思いした後にこれが。

本当に、神様は俺が嫌いらしいな。

・・・・・・はい、鬱はここまで！

折角だから楽しまなければ損だ！

草原を一通り見た後は逆方向のジャングルの方へ行く、これで決まり！

さあ、行こう！

草原は草食のよくわからない生物がいたり、川には平べったくて大きい謎の魚がいた。

ジャングルは広いし飛んでは木のせいでよく見えないので、降りてそこまで深くない所までを歩いて見た。

意味不明なほどに巨大化した虫や植物がたくさんあり、なぜこうなったという疑問を持った。いや本当にでかいから。

そのあと行ける範囲内を飛びながらみて、俺のお散歩は終了した。

すごいな異世界。ファンタジーなものにも程がある。

疲れたー。結構はしゃいだからな。

さて、明日からはまた訓練だし、巣に戻って寝るか。

『お散歩はどうでしたか？』

楽しかったよ。

『そう、それはよかった。もう寝るんですね。ゆっくり休みなさい』

うん。

s
i
d
e

m
o
t
h
e
r

——泣いている？

何かあったのか、我が子は寝ていながらも涙を流している。

帰ってきた時の表情の陰りの原因だろうか。

しかし・・・わたしに出来る事は限られている。

せめて、と寝ている我が子に近寄り抱きしめる。

悲しみを少しでも、一緒に背負ってあげる。

そうしたまま、夜は明けていく。

はじめてのおさんぽ に（後書き）

軽く補足。

主人公は才能に対してかなりのコンプレックスがあります。

才能があれば自分の世界はこんな風にはなかった。

そう思っているのも一つの理由です。

また、今回テンションが極端に変化するのには、異世界に来てから初めてのにゆとりが持てる時間だったのと、環境の変化に耐えようとする“壁”に隙が生まれたからです。

普段主人公が元気なのはこの壁が負の感情を感じないようにしていため。

という意味不明な補足。

感想評価アドバイスが、欲しいです。それ以外でも、欲しいです。

母さんの講義 壱（前書き）

前はすいませんでした。シリアス分がどうしても欲しくなっ
たんです。

そして今回もすいません。意味不明です。

総合評価200突破。速すぎませんか？

正直恐いです。それを上回るほどに嬉しいですけど。

有り難うございます！

短い。

母さんの講義 ㊦

龍は公式でチートなようです。

どうも皆さんこんにちわ俺です。

今日は夢にまで見たあの試練です。

皆さんも分かるでしょう？アレですよアレ。

せえので言いましょうか。せえの！

「「「「魔法！！」「」「」「」

そつだ！魔法なんだ！あの魔法だ！

かの有名なOHANASHIの人も使っていたあの魔法だ！

魔砲少女のように俺も砲撃魔法を撃ちまくる時が来たんだ！！

魔法以外の知識も教えるって言ってたけど、それでも魔法はテンションが上がる。

あ、今俺は巢の周りの空を飛んでいる。

母さんに朝、試練が始まる前に空飛んで良いかと聞いたたら二つ返事でおkされた。

だって気持ちいいし。

昨日も飛びまくったおかげで、多少の無茶も出来るようになった。目指せ、錐揉みダイブ！

我龍飛行中

さて、そろそろ戻るか。母さん待ってるだろうし。

魔法が俺を待っている！

と、言う事でやってきました我が家の地下室。

巢についたらついてきなさいと言われ、やってきたのがここ。

この事を一言で言うと、凄まじい。

階段から降りてすぐに大きな机と椅子があり、その隣に広い空間がある。

そこにあるものがこの本質。

それは、本。

ここにあるのは母さんが集めて、または受け継いできた、総数20000以上になる膨大な数の本。

つまりここには、膨大な量の知識が眠っている。

今から見るのはその一部、魔法についての知識。

『さて、ここに来た意味はもう理解しているでしょう。では、まずは基本的なこの世界の知識を授けます。しっかり、忘れないように聞いてください』

が、頑張ります。

『ん。では、まず私達龍についてを話しましょう。龍とはこの世界において最も古くから存在する、あらゆる生物よりも強く賢い、死という概念を超越した種族』

なんかすごい事になってるな。公式がチートとはこの事か（は？

『分かりやすく言えば、龍は一番昔からいる、寿命による死が無い、現時点で他の種族には太刀打ちできないほどの力を持つ、いわば最強の種です』

『わたしはそこまで長く生きてはいませんが、1万を超している龍もいます』

老いる事が無いのか。なんかよくわからん。最近まで人間やってたからか、時間の単位に目眩がする。

『龍は、たぶん理解していると思いますが、本能が非常に発達しています。同時に理性も発達しています。理性は本能を操る事ができ、プレスをする時もそれを使っています』

本能万能説。

『また、人の形をとる事もできます。現にわたしはそうしています』

母さん質問。俺も人の形になれるの？

『なれます。ただ、幼いうちはあまりやらない方が良いです。理由は話せませんが、後悔しますよ？』

ならいいです。

『では、続けます。龍は多少の優劣はあれど、全てをほぼ完璧に使えます。魔法については後に説明します。まとめて説明した方が分かりやすいですし』

『個体数はあまり多くなく、世界中探してもおそらく1000にも満たないでしょう。理由は、子供がでにくいからです。寿命というものが無いせいか、次の世代に託すものはあまり無いからだと思われる』

『龍についてはまだ色々ありますが、次に移ります。気になる事がったら、後でここの本を読むと良いでしょう』

わかった。

『次は他の種族についてです。まずは最も多い種族、人からです。人はあらゆる生物の中で最も欲というものがある生物です。子供もできやすく、比較的增加やすいです。魔法は使えますが、私たちに遠く及びません。彼らは1人では生きる事が難しく、群れ、国を作ります。その中で様々な文明ができていますが、これは今言う事ではありません。賢く、しぶとく、欲深い。それが彼らの本質と言えるでしょう』

うぐ。つい最近まで人だったし俺。なんかクルものがあるな。

『次は亜人です。亜人は人以外で人に近い姿、性質をしているもの達の総称です。私達龍種も、ここに入られる事があります。亜人はそれぞれ特徴を持っており、羽があったり耳や尻尾があったり、獣や植物が混じった形をとります。寿命は人より長いものもあれば

短いものもあります。が、龍の様に無いものはいません。魔法は龍には届かなくとも、かなりの力を持つものがいます。身体能力も同様です人より数は少ないですが、それでもかなり多いです』

亜人か。異世界の基本だな。

『他に魔物と呼ばれる獣の進化系がいます。それらは魔法が少し使えるようになったもので、個体差があります。人、亜人と彼らは敵対関係にあり、狩り、狩られる関係です』

魔物、これも基本だ。

『次は魔法について教えます』

キタ――――！！！！

母さんの講義 壱（後書き）

いや本当にすいません。意味わかんなかったでしょう。

これは無いだろうという場所があったら教えてください。優しく。

次回はメインヒロインを出す予定なんだ。

だけど予定は未定なんだ。

感想こい！！！！それ以外もこい！！！！

母さんの講義 式（前書き）

はい、短いです（殴

これからのシリアス担当は母さんになっていく予感。
だって、主人公がいちいち鬱になってたら話が進まないし。

魔法の設定は・・・突っ込まないでくれると嬉しいです。
それにヒロインはまだ登場しないそうです。

あ、あと、前回の本の数、2000じゃ少なすぎるとの指摘を受け、
20000に増やしました。

自室にある本の数を調べたら軽く百冊を越え、そして図書館無いの
本棚の数を思い浮かべ、俺は馬鹿すぎたな、と直した感じです。指
摘してくれた読者様、有り難うございます。

母さんの講義 貳

へ？おいおい、龍ってどんだけなんだよ・・・

いきなりだが、母さんの魔法講義開始。

『よく聞いてくださいね？では始めます。魔法とは、通常では起こりえない現象を魔力を使って具現化すること、簡単に言えば想像を実現させることです。限度はありますけど』

妄想を実現……いや、なんでもない。

『魔法の扱うのは簡単です。やりたい事を想像して、その想像に魔力を込めるイメージをすればできます』

簡単だ。母さん、詠唱とかそういうのは必要無いの？

『必要ありません。あんな面倒くさいのは人や亜人くらいしか使いません』

それってほぼ全てな気がする。龍は規格外ですね。

『少し前に言ったとおり、龍は全ての魔法を使う事ができます。しかし、やはり得意不得意があります』

そりゃあ、全部の魔法が得意ですとかどんなチートだよって感じだしな。このままでも十分チートだけど。

『その得意不得意は主に属性にでます。属性とは、自然的な魔法の分別に使われますが龍にはあまり関係がありません。わたしの得意な属性は、光、火、水です』

なんかそれっぽくなってきたな。でもやっぱり人だと制限が多いな。それに関係ありませんとか。

『では実際に調べてみましょう。知っておいた方が、色々と都合がいいですから』

わかったけど、母さん、どうやって調べるんだ？

『ブレスを使います』

ブレス？属性つきのブレス？

『あなたの今使っているブレスは無意識に魔力を使うため、純粋な魔力でできています。しかし、ブレスに意識して魔力を込めると、得意な属性がブレスに現れます。あなたは一度やった事がありますね？あまり覚えていないかもしれませんが』

えっと、もしかして洞窟最後のとき？アレは疲れて、あまり周りの様子は見てなかったからわからなかったのか？

『それに意識して魔力を込めるだけではそこまで属性はでません』

なら納得。

『やってみましょう。わたしが水を出しますのでそれに当ててください』

そういうと、一瞬で空中に水の球体ができた。魔法すげえ。

なんか頼りないし、室内というか、屋内でブレス撃つのはいけないと思うんだけど。母さんが気にしてないし、まあいいか。

さて、ブレスブレス。あの時の感覚を思い出す。

口に魔力が集まる感覚を思い出し、イメージを強くする。

集められた魔力を口から解き放つ。

轟音、は発射の時しかなかった。

なぜなら水によって完全に、音も無く受け止められたから。

水は電気でバチバチしている所もあれば、凍っている所も、更には水が黒ずんでいる所もある。

『これは、雷、氷、闇です』

なんという、厨二的な組み合わせ。それに闇か。やはり主人公的なものじゃないな。

『結構便利なものです。よかったですね』

そういつて笑顔の母さん。すごい癒される。恐育モードの時は恐いけど。

『属性もわかりましたし、続けましょう。属性のついていない魔法は基本何でも使えます。あなたが無意識に使っている念話もそうです』

へ？俺って魔法使ってたの？もしかして、母さん心読めるのかよすげーとか思ってたのは間違ってたのか？俺がやってたのかよ。

それにしても無意識って。龍は呆れるほどだよ。

『人の方では他にも細かいものがありますが龍には関係ありません。魔法は大体このぐらいです。後は本などで細かい事を調べるとよいでしょう』

て、これだけ？ずいぶん少なかったな。

『今日はこれから自由時間とします。本に触れるのはまた今度で、今日は外で自由にしてください。魔法はあまり使わないように』
自由時間キタコレ！しかし本も魔法も駄目なのか。じゃあ、飛ぶか。
ハヤブサ的飛行の練習でもするか。

じゃ、いつてきます、母さん。

ということ、日が沈むまで曲芸な飛行をしていますた。

s i d e m o t h e r

我が子の属性に闇が入っていた。

予想はできた事だ。卵も鱗も黒に近い色が入っていた。

しかし、すると本当にわたしの息子が……………

あの子はまだ人を嫌ってはいない。

今ならまだ間に合う。

なんとかしなければ。

あの子が人を嫌い、憎み始める前に。

母さんの講義 貳（後書き）

ヒロイン出せませんでした。すいません。

性格とかそういう設定は決まってるんですよ。

だけど今出すとなんかつまんない。

理由はそれです。さーせんww

次回は、決まって無いです。

感想評価アドバイスを待ち続けて幾億年（略

気付いたらユニークが1万を越えそうになってたので感謝（前書き）

一週間放置してすみません。諸事情でネットに通じなくなってまして・・・

これからは今まで通り書いていけると思っています。

すみませんでした。

気付いたらユニークが1万を越えそうになってたので感謝

いやゝまさかね？この作品がここまで来るとは思ってたわけ
でしてね？

何が言いたいかと言うと、ありがとございます。あれ？ありきた
りだ。

一万ユニークに届きそうで作者の右手は真っ赤に燃えています。

こんなの書いてる暇あったら続き書けという声が聞こえて来るよう
な気がしなくてもないですが、気にしません。明日か明後日までは
書きます。

なんかグダグダしそうなのでこのくらいで。

最後に、今回ネットが通じなくなったのは、作者が受験生なのと関
係があります。予想してみてね？

せっていしりょー せかいについて？

なんか本編だけじゃ理解できてなさそうな気がするので少し。

この世界、基本何でも有りです。

亜人は猫耳はもちろんありだし吸血鬼、その他諸々なんでもあります。

人は黒髪は少ないです。

そして異世界なので可愛い子ばかりです。美少女万歳。

男は知りません。想像にお任せします。

魔法は母さんがアバウトに説明してますが、まあ何でも有りです。召還とかもあります。死者蘇生以外は何でもゴザレです。

死者蘇生が無いのは都合です。あつたらシリウスでき無いし（えこの世界は最強レベルが結構いたりします。

でも主人公はそれでも最強になる予定です。

あ、ちなみに世界の広さはやばいです。

地球の2倍はあるかもしれません。

地名とか国名とかは“まだ”ありません。理由はそのうちわかります。たぶん。

これすらもグダグダになってきたので終わりにします。

これらのこととかは、そのうち設定資料の場所とか作って書きます。

では、聞きたい事があつたりしたら気にせずお聞きください。ネタバレにならない程度でお答えします。

お休みなさい（不健康）

対母さん戦の準備（前書き）

とばしちゃった。テヘッ。

ごめんなさい。反省も後悔もしてるよ。

このままだとテンポが悪くなっちゃうからね。仕方ないね。

ごめんなさい。

対母さん戦の準備

突然だけど、俺、自分の使っている魔法の名前考えたんだ。

その名も、想像魔法！

その名のとおり想像して発動するから思考魔法。

詠唱魔法とかそういうのよくあるからこれも有りじゃね？

え？もうあるって？そんなのシラネ。

創造魔法とかぶるって？そんなのシラネ。

名前がださいって？そんなの（ry

時は流れ、俺がこの世界に転生してから一年……

というわけもなく、時が経つのは速くなく、一ヶ月です。

それでも結構とんとんと思ってるでしょう。

俺の体感時間はもう10年は越えてますよ？

もう母さんの恐育ママっぷりがね、すごいんだよ。スパルタ？いや、そんなもんじゃない。

母さんの放ってくる水流とかをバリア的なもので防ぐ奴とかトラウマだよ。

笑顔でこちらにおびただし数の水流を撃ってくる。しかもホーミングしてくる。

当たるまで消えない。つまり俺に当たるかバリアで撃ち消すまで永遠に追って来るのだ。

威力も馬鹿にできないくらい。普通に数十を越えてるのに一発でバリア消し飛ぶとかどんだけ。

他にもきついのはあったけど、これほどきつかったのは無いよ。終わったとき、龍のチートな体力がつきてたよ。

ほか？母さんが空中にとどめた直径10メートルくらいもある水を一撃で蒸発させる威力の魔法を撃つとか、魔力の量を量る為に空目掛けて5日間ずっとプレスを吐いたりとか。

どちらも死ぬほどきつかった。水が消えない。魔力が無くならない。

うつつ、これ以上思い出したくないな。ポジティブに逝こう……。あ。

この一ヶ月間で基礎課程を修了させた。基礎課程というのは、飛行（速く飛ぶコツなど）魔法（プレス含む）体術（爪や尻尾、飛行戦など）知識（世界について）その他（いろいろ）。知識の方に入らない雑学とか）のこと。死ねます。一ヶ月でなんちゅう密度。

ちなみに、今日は自習の日だったりする。基礎課程修了後は自習が多くなるらしい。課題は出されるけど。

今日の課題は相手の意表をつく魔法。母さんの意表をつけと。

だから俺はちょーでんじほーとかやったりして試行錯誤している。

ここは相手の攻撃を反射するバリアとか、ファネル的なものとかにしようか。

母さんの意表をつく事って可能なのだろうか。だんだん心配になってきた。無理じゃね？

当たったら閃光を出す魔力弾とかは……無理だ。龍は視覚に頼らなくても簡単に敵を見つけられる。

いつその事、魔力で俺の分身作るとかどうだろう。

なかなか面白そうな気がする。

問題は、魔力の差で簡単にバレてしまう所だが、そこはかなり魔力をつぎ込んで、スカウターが！！的な状況にしまえば問題ない。

それでもって、分身破壊されたときにどんなギミックをつけよう。

やっぱポピュラーに爆発？それとも……爆発しか思い浮かばねえ。さすが芸術。

爆発のときに魔力が拡散するから、それをECM代わりにして突っ込むとか。

でもな。母さんの事だから、すぐに対応されるだろうな。

あとは、分身作るときにどうするかだ。

的の目の前で作る時、何のひねりも無かったらすぐバレてしまう。

俺自身は転移して、自分のいた所に作るとか。

転移先は分身の隣あたりで、タイミングは俺が分身を作りはじめたとき。

俺が転移した事がバレないようにしなければな。

慣れが重要か。

練習あるのみだな。幸い、母さんで試すのは明後日。時間は余裕がある。

まずは分身を作ってみる事から始めよう。

自分の姿を思い浮かべ、自分の戦闘時にする行動を植え付け、それに魔力を通す。

魔力は腐っても腐りきらないほどある。それが役に立つな。

お、出来上がってきた。まだそこまで型が決まってるから遅い。これも改善せねば。

おー！。すげーな。できちゃった。

うむ。上出来。瓜二つだ。

だけどこれじゃあ植え付けができてるかわからん。もう一体作ってと。

俺が三人いる。

さあ、闘うのだ！

俺の分身2体は同時に動き出し、牽制としての属性無しの魔力弾を放つ。燃費良いからな、アレ。

弾幕ごっこしながら片方が空へ上がる。片方は地上のまま。

ほう。細かい所で違いがでるのか。面白い。

……こつちの世界に染まってきてるな。悪い事じゃないけどさ！複雑だ。

片方は空中で魔力弾と弱めのブレスを豪雨のごとく撃ちまくってる。片方は地上でバリアを張りながら貫通力のある少し燃費の悪くなつた魔力弾で応戦。

空中の方が強めのブレスを撃って地上の方のバリアを貫いて急降下。バリアが破れ、ブレスの衝撃を喰らって怯んだ隙に爪を突き立てながら相手の上に突進、そのまま押さえつける。

地上の方は少し暴れていたが、首を爪で貫かれ、消滅。もう片方も魔力切れで消滅。

終了。予想以上のできだったな。これは使えそうだ。

だけど、意表をつけるかと言ったら別問題。魔力も今回はバレてしまふレベルのものだったし考えなければ。

作るのを速くするのと転移の練習か。

やろっ！

と
ら
う
ま

母さん、今日は何すんの？

『今日はわたしの撃つ水流をバリアでガードしてもらいます』
なんてこった。いやな予感がびんびんするぜ！

『では、始めましょう』

心の準備をする時間は？

『ありません』

その瞬間、母さんに作り出された数十を越える水流が俺に襲いかかる。

必死になったバリアを作り、呼吸を整えようと思ったらバリアのガラスの割れるような破砕音。

い、一発かよ。

再びバリアを作るもかなりの量の水流が接近してるためすぐ壊される。

死ぬ思いでバリアを作り続ける。魔力切れの心配は無いが集中力が切れた瞬間お陀仏。

終わらない終わらない終わらない終わらない終わらない
終わらない終わらない終わらないオワラナイオワラナイ
オワラナイオワラナイ……うわあああああああ
あああああああああ!!!!!!

はあ、はあ。なんて悪夢だ。昨日のアレが………もう嫌だorz

対母さん戦の準備（後書き）

キングクリムゾン！！

ごめんなさい。早く先の事が書きたかったんです。

ちなみに母さんは何個目の試練か教えてません。名無し主人公が聞くのを忘れてるからちょうど良いと、残り少なくなるまで言わない気です。やる気を出させるためですが。

二十話？こえたら設定資料とか作ります。予定は未定です。

感想、評価、アドバイス、その他諸々を待ち続けて幾一兆年（ry

対母さん戦の準備 更に準備（前書き）

もーそろそろひどくなってくるぞ。あ、元々酷いできか。

相も変わらず短い。ネーミングセンス無い。文章能力皆無。意味不明。

ごめんなさいorz

でもこれが作者だから。あまり酷い事言わないでよ？硝子のハートだから。

対母さん戦の準備 更に準備

そろそろ名前がついても良い頃だと思っんだが、ソコんとく、どうなんだ？

というか、この作品で名前らしき名前って蒼姫くらいしかでてなくね？

あと、衝撃の発言！俺の魔力の色って、意識しないと身体と同じ色。つまり青みの混じった黒なんだ！

べ、別に忘れてたわけじゃないんだからねっ！

ふふふふふ、二日目だ。

つまり、母さん戦が明日だという事だ。オワタ。

はーあ。何とか分身の方も転移の方も実践で使えるレベルになってきたな。

だけどこれだけじゃ明らかに足りないんだよな。母さんは手加減はしても油断はしないし、手札が一枚とか無いから。

とすると、あれかな。

ファ　ネルとかド　グーン。

いわゆる、全自動砲台（うごくんです！）

魔法の力を思う存分発揮できそうだし、魔力底なしの俺だったら量もかなり増やせるはず。

行動のパターンとかもさっきの分身で色々やったおかげで複雑にできるし、やる価値ありそうだ。

それとあと、魔力の拡散を防ぐバリアとかも作れるようにしなきゃ。今のままだと最悪、作戦が台無しになる可能性がある。それはなんとしても避けたい。

魔力吸収とかもやってみたいし、これもやろう。

やろうやろう。

まずは……スフィアを作ってみよう（ファンルもどきのこと。今命名。よくありそうだ）

適当に頭の中で作ってみる。

形は魔力球で大きさはバスケットボールくらいかな？あと込める魔力は多すぎず少なすぎず、どちらかと言えばやや多め。

撃つのは魔力のビーム。というよりレーザー。連射可能です。

動きはランダムで、相手の死角に潜るタイプと相手を警戒させる為に目の前とか見つかりやすい場所を動くタイプ、そして2つを合わせたタイプ。

見切られないように、2つのタイプは一定時間で入れ替えよう。

あと、スフィア同士がぶつからないように、一定の範囲内で反発す

るようにしてと。

こんな感じで、作ってみるか。

試しに一個だけ、合わせたタイプを。

作成、完成。

呆気ないな、ちゃんとできてるだろうか。

試しに分身（簡易Ver）を作り、スフィアに攻撃させてみる。

……うは、これはひどい。

何が酷いつてスフィアが酷い。鬼畜な意味で、だけど。

音速くらいでてねえか？というくらいのスピードで的に近づいて連射。撃ってる間も動きまくり。

これはいけそうだ。超いける。イカすぜ！（殴

的はもちろん、瞬殺されました。

今度は多めに作ってみる。20くらい作り、それぞれのタイプを3分の1ずつ。

強度を強くした実戦向けの分身をつくり、その思考を回避特化する。

攻撃開始。

20のスフィアが的の周りに展開しようと高速で動くが的の回避特化思考が黙ってるはずも無く、翼を広げて低空飛行、振り払うように逃げる。

低空飛行なのは下からの攻撃を少なくする為だろう。しかし、相手が悪すぎた。いや、凶悪すぎた。

最適なルートを音速で動き、レーザーを連射。死角へ潜ろうとするのもいるし、かといって正面なども安心できない。

そんなのが20個もいるんだ。正直俺でもきつい。母さんもそれなりに苦戦して欲しい、なあ。

お、とうとう一発目が当たったな。こっから悲惨だぞ。

最後のおまけとしてつけた機能。それは相手に一発でも当たると連射速度が上がるというもの。

傷ついたらその分動きが悪くなる。当たりやすくなる。だから連射速度を上げ、更に追いつめよう、だ。

実際に、的は一発当たった後、動きが少し鈍った瞬間に連射速度が増したスフィア20にマシンガンのごとくレーザーを浴びせられ、消滅。

使えるな。

後はバリアバリア。魔力を抑えるというより、魔力の拡散を防ぐバリア。

今のままだと、常時俺からでてる魔力の量が多すぎるせいで分身と俺の区別がはつきりつき、分身の意味が一部無くなってしまう。

それでは作戦の意味が無い。

昨日までは分身の魔力を多くすれば良いだろと思っていたが、明らかに勿体ないし、確實じゃない。

やっぱり試しに作るか。もう色々考えついてたし。

まずは魔力の拡散、流出を防ぐ手段。これが俺のひらめきによって解決される。

バリアに吸収させれば良いのだ。

俺からでる魔力をエネルギー源として、常にある守り。

エコだな。

敵からの攻撃の魔力も吸収できるようにはするが、母さんには焼け石に水だろう。

よし、構築。

できたバリアを、スフィア1匹に攻撃させる。

レーザーの連射が来るが、俺の垂れ流し魔力を吸収して常に強化、更に相手のまで吸収する貪欲な守りはびくともしない。

これも使える。かなり使える。

しかしこれでレーザーが効かなくなると、母さんがバリア張った場合はスフィアじゃ駄目そうだな。

ま、牽制にはなるし良いか。

よし、明日に向けて調整だ。

恐育ママ

いろいろやってるみたいですね。

楽しみです。

それにしても我が子は・・・無自覚の天才なのでしょう。

自分の事を全くすごいと思っていない。

謙虚なのは良い事ですが、少し自信を持たないと。

わたしの水流に耐え続けられるほどなんです。

全く、可愛い。

対母さん戦の準備 更に準備（後書き）

うふふふ。意味不明。いつもの事だけどね。

あと、総合評価の上がり方が異常で驚いたんだ。

これはプレッシャーをかけて作者をいじめようと（ry

次回！とうとう母さん戦！そして初めての戦闘らしい戦闘！

そして予定は未定！！！！

感想評価アドバイスなど、欲しい、です。

対母さん戦 本番（前書き）

後半、母さん無双。

前半、名無し奮闘。

戦闘描写、ごみ。ほんとうにごめんなさい。

対母さん戦 本番

蒼姫が男の名前で何が悪いんだ――！！！！！！！！

はっ！夢か……。悪夢が最近多い気がするな。

おはようございます（小声）

ただいま、早朝でございます。太陽が遠くの山から顔を出すか出さないか位の時刻です。早いです。

なぜこんな早くに起きたかというと、まああれだ。母さん戦の前に一回飛んでリラックスしたかったからだ。

緊張でガチガチの状態で母さんに挑むとか無謀すぎる。

それに俺はまだ母さんが戦ってる所を見た事が無い。

試練のときも、動かず攻めるか守るかだったし、怖い、怖い。

最初のアレをやった後、絶えずに攻撃して母さんに攻撃する隙を与えない。

いや、正直ずっと俺のターンじゃなきゃ勝率は0に等しいと思う。水流おそろしや。

では、そろそろ飛びにいくので、一旦おさらば。じゃあね。

「アイ！キャン！フラアアアアアイイイ！……！」

ふう。少しやりすぎたぜ。円卓な鬼神の動きも今の俺には不可能じゃないぜ！

いい感じにテンション上がってきたな。これを崩さずに持っていきたい。

さて、と。そろそろ時間だ。母さんに勝てるとは思わないが、一発当てるくらいはしたいな。

名無し！いきまーす！！！！

というわけで来たのがここ……ここ、どこだろう。

母さんに近くに來なさいと言われて寄ったのは覚えてるんだが、そこから先がさっぱりだ。

たぶん転移したんだと思うが、長距離の転移なんてまだした事無いからわからない。

あたりは何も無く地面は黒く、空も黒い。光が無い。

光が無くて龍は見えるので問題ないが、人だったら何も見えないだろう。

あと、距離感がなんともいえない。

これは全くの感だが、ここは母さんが空間を歪ませて作った場所じゃないのか？

光が無いのも納得いくし、何より母さんならできる気がする。

さて、《母さん、準備は良いよ》

意識して初めて念話使ったな。今まで無意識でやってたし、気付いても面倒くさくてやってなかった。

《わかりました。では、始めましょう》

空気が軋む。

身体は緊張しているが、それ以上に熱く滾っている。

それは強者と闘う悦び。

自らの力を示すまたとない機会。これで熱くならないでどうする。

一旦頭の周りを少し冷やしてクールダウン。より冷静に、それでも熱く。

母さんの合図、光の玉が空へ撃ちだされる。落ちたときが、始まり。

魔力を身体に馴染ませる。思考は常にクリーン。

光の玉が落ち、閃光を発つた瞬間、作戦開始。

まずは分身を作成。

完成と同時に転移。

スフィア展開。

バリア起動。

準備は整った。母さんは既にバリアを作り、水流を撃ちだしている。急がなければ。

分身に回り込ませ、自分は正面突破。

スフィアだけに攻撃を任せず、自分もブレスを連射、水流との接触まであと2メートルも無い。

そこで電撃を水流に放ち、威力を減退、そのままバリアにあたり吸収。

ある程度の迎撃をスフィアに任せながら低空を翔る。

分身は俺の所より少ないが、それでもそこその量の水流を俺と同じく電撃で迎撃している。

分身も俺と同等の事ができる、それにこの特殊なバリアも張ってる為、俺がどちらかはバレてないはず。

それにしても母さん、様子見という事か？いくら何でもぬるすぎる。

スフィアの攻撃もバリアに阻まれてあまり意味をなしていないようだ。

んつと、そろそろ接触だ。さて、第2段階。

母さんの周囲に展開していたスフィアが一カ所に集まり、そのまま爆発。

そこに迎撃に使っていたスフィアで一斉射撃。

まだまだ俺のターンは続く。

魔力の残量が少なくなってきたスフィアを片っ端からバリアにぶつけ、爆発させる。

水流がまだ飛んで来る事からやられてない事と、まだ余裕だという事がわかる。

ちっ。予想以上に固い。そろそろ分身の方もついてしまっ。

まだ大量に残ってるスフィアを10くらい呼び寄せ、融合。

より能力の高い奴を作成する。

それを今度は新しく作り、量産。

その間もちろん撃ちまくり。

ある程度作ったら、口に魔力を収束、そのまま発射。

それに合わせ、強化型スフィアも一斉に発射。

さらに並行して魔力弾を連射。

母さんのバリアに歪みが入り、ひび割れ、崩壊。

それと同時に分身の俺参上、そのまま接近して分身のスフィアを母

さんに密着させ起爆。

分身自体は間近でプレス。

なかなかいい感じにいけてる。しかし油断はできない。

分身のスフィアが全て爆発し終わり、視界が晴れて来る。相手が倒れてないのはわかる。

くッ！？

ものすごい悪寒が走り、咄嗟に分身を爆発させる。

その爆発を切り刻んで出てきたのは・・・母さん。

片手に光で作り上げた剣を持ち、ぼろぼろになった服を全く傷ついてない身体の上に羽織っている。

化け物かよ！

そう思いながら一時中断してしまったスフィアの攻撃を再開させ、俺自身は後ろに下がる。

よくわからないが、あの剣はやばい。存在感が違う。アレがでた瞬間から背筋が凍りっぱなしだ。

来るなよ！とそんな内心の俺とは関係なく、スフィアの攻撃を全て剣で弾くという神業を見せつつ、スフィアを破壊しながらこちらに高速で接近して来る。

これじゃ逃げられない。糞が。

悪態をつきながらもまだあまり制御できてない闇を作り出す。

形状はやや長めの剣が2つ。それを母さんに向かって撃ちだす。

おいおい、あり得ないぞ。

まだ慣れてないとはいえ、闇だぞ？いくら相手が光だと言えども、あんな簡単に消されてたまるか。

まずっ！もう距離があまり無い。

悪足掻きに大量に分身を作り出す。魔力は大盤振る舞い。

俺は何体か引き連れて上空に上がり、プレスやら魔力弾やらをこれでもかと撃つ。

しかし命中率は高くない。的は大きくなり、素早い。

地上にいる分身は母さんに切られ、瞬く間も無く消え去っていく。

そして母さんがこっちに向けて剣を構え、凄まじい魔力を感じたと思ったら、俺は落ちていた。

最後に見たのは、巨大化した光り輝く剣だった。

これは、すごい。

本当に底が知れない。一瞬だけ肝が冷えた。

それにバリア破壊されて、つい光剣を使ってしまった。

あそこまでやるつもりは無かったけど、つい楽しんでしまっていた。

これなら……いや。

そろそろ人化も大丈夫そうだ。

本当に、我が息子は。

対母さん戦 本番（後書き）

地味に伏線を張っていたりするが、回収できるのかな？

まあいい。ついに初の戦闘らしい戦闘。

名無しの小細工、殆ど意味をなさなかった。まだ慣れてないのもあるけど、少し考えが甘かった様子。

作者は戦闘書くのが苦手です。そもそも文才が無いという。

次回！ヒロイン、ついに登場・・・なのか？

例のごとく予定は未定！

感想などがくるとヒロインを出す確率が上がるかもよ？

ようやく人化 まさか、そんな馬鹿な！（前書き）

短っ！

今回は2000どころか1500も越えてないです。

すいません。

言い訳は、次回へのつなぎだからっ！

ようやく人化　まさか、そんな馬鹿な！

ばかな！どうしてこうなったんだ！

こんな事があつてたまるか――！！！！！！

母さんに落とされ、気を失った後、一度起きた。母さんに合格かどうか聞き、無事に合格した事を知って安心した俺は、再び倒れ、ぼろ雑巾のように眠った。

そして二日後、俺は起きた。

おはようございます。俺です。母さんに無双されて負けた俺です。

まあ、元々勝てるとは思ってなかったし、合格、無事にクリアできたからよかった。

でもまさかあのスフィア起爆&プレス&魔力弾でも無傷なんて・・・
・・・自信を失いそう。母さんが強すぎるだけだよねえ？まだ余裕ありそうだったし。

《起きましたね。来てください》

っと、母さんからお呼びだ。行くか。

《少々遅い気もしますが、お疲れさまです。先程の試練で、あなたはもう人化しても良いと判断しました》

人化………？人に、化ける。人に………まじで！？

《母さんそれ本当？》

《本当です。なぜ今まで人化をさせないようにしていたかも話します》

聞かない方が良いですと言われたアレか。

《理由は……あなたが男に生まれたからです》

ファッツ？

《これはまだ話してなかった事ですが……私達龍は、見ての通り、龍のままだと男女の違いがありません》

な、なんだって……！！

初めて知った。そんな事確認する以前に思いつかなかった。

言われてみれば、無い。勲章が無い。せがれがない。「自主規制！」がない。

違和感が無いせいで気付かなかった。ショック！

《龍のままでいるだけだったらあまり問題は無いんですが、人化するとなると話は違います。龍は男が生まれにくいのです。そのため、人化するのには女が多くなる。そうした結果、何の対策もなしに龍が人化すると、確実に女になるのです》

こ、怖い。

つまり、俺があるとき忠告を聞かなかったら、女の姿で人化したって事か？男の精神を持って。

やらなくて良かった……

それ以前に男が生まれやすいって聞いた事無かったな。別に言う必要も無かったんだろうけど。

《その対策というのは、生まれてから少なくとも一ヶ月は間を置く事と、ある一定の強さを持つ事です。一定の強さはよくわかってはいませんが、魔法の並行発動に、自力で音速を超えること、ブレスのアレンジなどは必要とされています》

今でも大丈夫という保証は無いというのか？

それにしても、龍って化け物だよな。何だよ自力で音速とか。

《不安なのはわかりますが、大丈夫・・・・・・・・・・です》

何だその間は！余計不安になるじゃないか！！

《で、では、早速やりましょうか！方法はとにかく人になろうとすればいいです！》

ごまかした。

ジトつとした視線を母さんに向け、人になろうと意識する。

それにしても大雑把な説明だな。母さんはたまにすごいアバウトになるから・・・・・・・・

なんて考えてると、自分の周りに藍色の光の粒子が乱舞する。

そして、強く輝いた後、そこに立っていたのは・・・・・・・・

『ようー、よ』

だ
っ
た
と
き
。

嘘
だ
ッ
！
！
！
！
！
！

ようやく人化 まさか、そんな馬鹿な！（後書き）

次回！驚きの新展開・・・・・・・・・・？

ヒロインが、とーじょーしたいそうです。

なので、感想をください。ま、別に無くても登場するらしいけどね。

せがれをいじろう！（殴

人化 よう！ よとナニカ（前書き）

正直反省している。

なのでごめんなさい。

ヒロイン登場。

人化 よう！ よとナニカ

世界はこんなはずじゃなかった事ばかりだ！！！！

俺は呆然としていた。

俺の人化が成功したのに合わせ、母さんが水で作った鏡を用意してくれた。

ここまではわかる。

ただ、その鏡に映っていたのは呆然としている………幼女。

藍色（つまり龍の身体の色）の、長い、艶のある髪に、奇跡的なバランスで顔に乘せられた長い睫毛と鮮やかな紅い目、ツンとした鼻、どことなく蠱惑的な唇。白磁の肌に、藍色を主としたローブ、その上からじゃ全くわからないつるぺったんな胸。

……いやいやいやちよつと待て！！

俺は男ですよ！なるとしても少年でしょう！

なんで、なんで幼女なんだ！

「母さん！どついつこと！？」

ぐはっ！こ、声までも可愛い………はっ、俺は何を！

それにしても母さん何も反応しないな。

えっと母さんは、なんかぼうつとしてる。

うわ、なんかこつちをハイライトの消えた肉食動物な目で………
・は？

あ．．．ありのまま今起こった事を話すぜ！

『母さんがこつちを見たと思ったら、母さんに愛でられてた』

な．．．何を言っているのかわからねーと思うが、俺も何が起こったのかわからなかった。

頭がどうかかなりそうだった．．．

近距離転移だとか光速だとかそんなチャチなもんじゃあ断じてねえ。

もつと恐ろしいものの片鱗を味わったぜ．．．

おそらくきつと一時間くらい後に正氣に戻った母さんは、珍しく赤面しながら言い訳を始めた。

「だ、だって可愛かったですし．．．それにあの仕草と来たらもう（恍惚とした表情）」

母さんって声まで完璧美人だなーそれにしても母さん可愛いなー。

そしてまた、俺は母さんに襲いかかれるのであった。

なんとか母さんを正気に戻し、なぜ俺が少女になったか理由を聞いた。

「たぶん、そういう体質だったからだと思いますけど、もしかしたら、わたしの一族にも関係してるのかもしれませんが。わたしの一族は、男が生まれた事ありません」

ヴァカナ!!!

「で、でも、まだ希望はあるかもしれません。あくまでも容姿だけの可能性もありますから」

そういわれて、母さんに背中を向け、恐る恐る下着の下のせがれの存在を確認する。

……いた。いた——！！！！

せがれは生きていた！転生する前より幼くなっているけれど、それでも生きていた！！！！

これほど嬉しい事は無い。

やばい、嬉しすぎて涙が……

まあ、この涙目が原因で、結局母さんにお持ち帰りされたんだけどさ。

その夜、俺は母さんのホールドからなんとか抜け出し、寝床から這い出て、巣から夜空を眺める。

身体は、人の形。ここに来る前までは当たり前だった事が、今ではとても新鮮に感じる。

なにより、二本の足で立ち、人語を発している。人らしい事をして
いる。

なんか感動。

夜空は、月みたいな星が一つに、接近した火星レベルのが3つくらい。そのバックに、まるで魔法の光のように鮮明で、そして大量にある無数の星。

手を伸ばせばとれそうなくらいに……とれそうなくらいに……
・とれた。

手のひらにあるのは、星のように美しい、銀色の宝石のついた首飾り。

なぜに？

ん？なんか弱々しく点滅してるな。魔力がもう残り少ないのか？わけてやるか。

深呼吸する。そして魔力を込める準備をして、また大きく息を吸い込み……

とりあえず、可愛らしい声でそう挨拶仕返した。

???
side

おにい、ちゃん。

人化 よう！、よとナニカ（後書き）

主人公幼女化、母さん暴走、そしてヒロイン、更に伏線。

すいません。まだヒロインがどんな感じかわからないですよ。

次はヒロインで埋まるので期待してね！

ちなみにデバイスはデバイスでもなのはとは関係ありません。
でも、似ている所はあるかもしれません。パクリとか言わないで。
作者が一番理解してるから。

I r i sは星の名前。読み方はイリス。本当にあるからすごいよね。
由来は虹の女神イリスから。天地間の連絡の女神らしい。
候補はK i l l i aとか、K r e u s aとかあったけど、結局イリス
にしたんだ。

勘が鋭い人は、このヒロインの性格の元となったのがなにかわかる
かもしれない。

最後に、伏線回収までは間が空くそうです。

最近更新速いよね？ご褒美に感想とかくれないかな。

十萬PV突破！！これからについて。
(前書き)

ちよいと書いた方がいい気がしたからだ。他意は無い。

十万PV突破！！これからについて。

毎日投稿を微妙に頑張ってたら、十万を越えていた。びっくりした。
なんか、目から海の水が流れてきた。びっくりした。

なんてふざけるのは止めにして、有り難うございます！

これからについてをそれとなく。

登場したのにまだ良くわかってないヒロインと、試練を終わらせたら、外へ行く予定。

龍が寿命が無いのもいかす予定。

ハーレムにはならない予定。 なってもハーレムエンドにはならない予定。

魔法は後付け設定が増える予定。

主人公はダーク化する予定。

ラピュタの雷を落とす予定。

主人公以外の異世界人が来る予定。

AIは一番萌えると思う。

おにいちゃんと主人公を呼ぶ誰かが登場する予定。

ある時期を越えると、フヒイwwな予定。

突然やつては行けない事をする予定。

作者は乱心する予定。

妹はヤンデレが似合うと思う。

うわよう！　よつよいをやる予定。

最近の流行をやる予定。

ネーミングセンスが無いから適当に星から名前をとって来る予定。

汚物は消毒する予定。熱殺菌。

だが断るを言わせる予定。

幼女禁止されたらHARAKIRIする予定。

作者が受験に落ちたら主人公もやさぐれる予定。

グロ描写は頑張る予定。

そろそろ作者が勉強頑張る為に更新が遅くなる予定。

えいごきらい。

今回は予定をたくさん書く予定、だった。

書き過ぎと言われるまで書く予定。

人類などどこにもいない予定。

主人公は鬼畜でドエスになる予定。

主人公はヒロインに依存する予定。

逆もある予定。

修羅場る予定。

世界間移動はしないがそういう設定はある。うふふ。

作者はこれからいつそうキモくなる予定。

雪風良いよね。

エターナルフォースブリザード!!!!

ゆっくりしてってね!!!!

・ ・ ・ ・ 予定は未定だよ？

そのうちまたこんなのやる予定。

フヒヒwwwwwwサーセンwwwwww

十萬PV突破!!これからについて。(後書き)

ごーめんーなさい。

I r i s (前書き)

色々ご都合主義。 やっつけにも程があると思う。

あと、イリスさんの口調がおかしいと思います。 このタイプは慣れてないので勘弁してください。

フラグ回収の為に徐々にシリアス化していこうと思う。

でもまだそこまでシリアスじゃない。

I r i s

なぜだ。

こいつにもイリスという名前があるのになぜ俺には無いんだ。

表に出ろ。

俺は今の状況がよくわかっていなかった。

だって星に手を伸ばしたら、なんか掴んでたんだぜ？

しかも、ノリで魔力を入れたら動き出したんだぜ？

さらに、魔法並立発動補助デバイスなどと意味わからないこといつてくるんだぜ？

なぜか、俺の事をマスターとか呼んで来るんだぜ？

さっぱりだ。

とりあえず、呼び方は本人？本機？も言ってたしイリスでいいとして、とりあえず何か聞いてみよう。

「お前は何だ？」

はい、恥ずかしくて名前で呼べません。機械？相手に俺は……

ふ。

『私が何か、と言われれば、魔法並立発動補助デバイスの管理人格
としか言えません』

機械だな。すごい固い。俺も人の事言えないけど。何かこの身体口
が重いんだよ。それなりに感情が昂ってないとしっかり喋れないん
だよ。

「では、何処から来た」

定番です。

『この世界とは別の世界の、私を作り出した研究所から来ました』

別の世界。まあ、あってもおかしくはないか。

「お前は どうしてこの世界に来た」

好奇心ですよ。

『私が望んだ事ではありません。研究所の事故による膨大な魔力の
発生によつて空間が歪み、私がその歪みに飲み込まれたせいだと思
われます』

専門的な事はわかりません。

「なぜ、俺がマスターなんだ」

だっていきなりそう呼ばれたんだよ？

『わかりません。この世界に来た時にはすでにマスターはマスターでした』

・・・なんか可愛い。声もそうだけど、どことなく初々しいというか。マスターはマスター、か。

「お前は俺でも使えるのか」

だって使いたいじゃん。

『使えます。でなければ私のマスターではありません』

さいですか。

あまり良くわかって無いきもするが、まとめよう。

まず、こいつは魔法並立発動補助デバイスで、さっきから話してるのは管理人格のイリス。

この世界とは違う、この世界から見た異世界の研究所の事故によってこちらへ来たと。

で、俺がなぜマスターなのかはわかっていない、しかし俺がマスターだと。

そして、俺は使う事ができる、

うーむ。どっかのアニメにこれみたいなのあった気がするんだが・・・思い出せない。

見たのは結構前だし仕方ないな。

だけどここれで異世界の証明か。魔力で空間が歪んだとか言ってたし、俺の馬鹿魔力を使えば移動できるんじゃない？

そうすれば、地球に、日本に、俺がいた世界に戻る事ができるのか。

そうすればまた家族に……。いや、今考える事じゃない。それ〜で、試してみようと思うんだ。その、イリスの能力。

「おい、い、イリス。お前は具体的に何ができるんだ」

恥ずかしいけど改善しなければこのままだと思つのです。

『私はマスターの魔力を使い、独立して魔法を使用し、マスターの補助をする事ができます。あらかじめ優先する魔法を登録すればそれを多用します。また、マスターの魔法のある程度の補助もできます。私に魔力だけを渡し、魔法の使用を全てを任せる事も可能ですが、お勧めはできません。ある程度の戦闘をこなし、マスターの癖や欠点などがわからなければ、私のする事はマスターの邪魔になるだけです。なので、はじめはマスターの魔法の補助だけにすることを提案します』

ずいぶんと饒舌になったな。聞いてない事も言ってるよ。

ま、要するに俺の魔法の補助をするかイリス自身が魔法を使って俺を補助するか、ということかな。

察するに、最終的には俺が気が回らない所をサポートする、息がぴったりな2人で魔法を使うのと同じ状況にするのか。

しかし今イリスは俺の事を良くわかってないし、俺もイリスの事をよくわかっていない。

やらせるとしたらいざというときのバリアの構築とスフィア・・・はまだやめた方が良くから魔力弾の自動生成。

保険。それと牽制をやってもらおう。たまにその他。

調整する為にも母さんとまた戦わなきゃな。気が重くなる。

そうだ。

「視覚強化を俺に掛けてくれ。魔力は気にしなくていい」

『わかりました』

そう聞こえてすぐ効果は現れた。

ちなみにこの幼女、の姿をした男の龍は人の形でも十分身体能力は高く、五感は優れている。

さすがに龍のときまでとは言わ無いが、普通の人とは比べる事が間違ってるくらいに強い。

その視力に、視覚強化を掛けると・・・

「おお！星がよく見える！！」

そう、良く見える。

この世界は空気が汚れていない。空はきれいだ。

さっき見ていたものより更に鮮明になっている星空。

やべ、月が近い。さっきの火星もどきがさっきの月より大きく見える。

望遠鏡要らずだ。

それにしても便利だな、イリス。

ノリで視覚強化とか言ってみたのに本当にやっちゃった。

俺が魔法を使うときは想像するという行程が必要である。

何度も使っている魔法ならともかく、新しく使うものはそれなりに時間がかかる。

これも人とは比べ物にならないくらい速いが……

だが、イリスは想像する必要は無いし、言われた事を迅速にやる。

迷いは無いし、知らない魔法も魔力さえあればすぐに発動させる。

便利だ。便利すぎる。これがご都合主義というもののなか。

その他に強化も入れよう。

感情が薄いのが少し難点だが、そこはこれからなんとかしていこう。

イリス、恐ろしい子。

「イリス、お前は使えるな」

『当たり前です』

ピカツと光ってそういったイリスはいつもより人間らしい声だった
そうな。

なぜ、俺はこんなにも早くこいつを信頼しはじめたのだろう。

S i d e I r i s

待ってください!!

私は・・・!!

??? S i d e

送り出す事はできたが、成長したイリスのAIが劣化してしまった。

くそ！なんでこんな大事な時期に!!!

やっと完成したイリスを娘に渡せるはずだったのに!!

いや、私が何を言おうと考えようともう変わらない。

イリスは機械より人に近い。

私にとってイリスはもはやもう1人の娘だ。

どうかイリスを手に入れるものが、強く優しい心の持ち主であらん事を……………

その願いは、叶うはずの願いは、闇に侵されていく。

I r i s (後書き)

そろそろ俺は駄目だ。

シリアスモードに入る準備。でもまだ準備。

主人公をどん底へ・・・フヒヒwww

シリアスに近づいていく為、雰囲気壊さないように前書きとあとがきは徐々に減っていきます。まだ減らないけど。

あ、そうだ。後付け設定。

龍は自分の身体の色と魔力の色はほぼ同じです。

稀に違うものもありますがそれは少し特殊。

あとイリス。

ま、これもチートです。魔力さえあれば、命令された魔法は何でも発動できます。

無理なものもあるから何でもは言い過ぎかも。

だけど、最低条件が龍の手加減無しブレスを3日間放ち続けつる事ができるくらいの馬鹿魔力。これは欠点でもある燃費の悪さにあります。

高性能だけど高性能すぎて効率が悪いのです。

次回は幼女頑張る。当面は幼女で行きます。え？男で龍だって？シラネ。

あ、やっぱ龍は有りで。幼女＋龍

感想をくれた方に抽選で（殴

龍は闇に混じり、獄へ堕ちる。（前書き）

前置きのようなもの。

やりすぎた感が否めない。そのうち修正する可能性大。

龍は闇に混じり、獄へ堕ちる。

昔、どんなものよりも強く、優しい龍がいた。

その龍は美しく優しい母に育てられ、相棒と出会い、ついに旅にでる。

旅の途中、一つの*****を見つける。

そこで龍は*****と出会い*****になる。

全ての悲劇はそこから始まる。

その出会いは引き金。

プレリユードの終了の合図。

優しい前奏曲は終わり、どこまでも残酷な無音が始まる。

心が、閉ざされていく。

何処から湧きだした闇に心を吞まれるのが怖い。

見渡せば、紅。

鮮烈な赤が視界一面。

悲劇は悲劇のまま。

デウス・エクス・マキナは現れない。

幕を閉じる事すら許されずに続く哀しい物語。

龍は闇に混じり、獄へ堕ちる。（後書き）

突っ込むのは禁止。

実際はそこまでシリアスにはならない。

今回は緩みすぎた雰囲気を少し締めるため。

作者は音楽に詳しいわけではありません。

ダイジェストおおおお。(前書き)

さーせん。

色々と作者に失望すると思う。
時間がないからごめんなさい。

見捨てないでね？

ダイジェストおおおお。

空が青いなーーーーー。

『現実逃避はやめてください』

そんな毎日。

人化したら母さんがレベルアップしました。恐育の意味で。

相変わらず天候の変わらない巢。そこで俺は……

「遅いですよ？隙だらけです」

母さんになぶられる。

代わり映えのしない（あまり公開したくない）毎日なので、ダイジ
エストでお送りします。

まず、人化した月。

起床、母さんに襲われる。

イリスさんが母さんに見つかる。

説明する。

母さんが妙にやる気を出す（死亡フラグタッター♪）

母さんの試練開始。

人状態での戦い方をみっちり。

初期の受け身とかで一ヶ月終了。

才能が欲しいと思った月。

イリスに言葉攻めされる。『こんなことも・・・』『非、効率的です』

理由はなかなか母さんと戦えない。

イリスさん的には母さんと戦う俺を見るのが好きらしい。

見ると経験値ウマーだそうだ。

体術訓練開始。

難しかった。

母さんに投げられる毎日。

神様タスケテーと思った月。

ナニカに目覚めそうで怖い。

最近投げられるのが好アツーーーー！！

本気でお空へ飛び立とうと思った。

体術訓練まだまだ続く。

代わり映えのしない月。

その名の通り。

いつも通り投げられる。

いつも通り罵られる。

いつも通りお空へ飛び立つ。

俺オワタな月。

とうとう母さんと本格的に組み手。

やっと10分持つくらいになってきた。

イリスが珍しく罵らなかった。

これで終わったら良かった。

組み手中、隙をついたと思ったら全身骨折していた。

母さんが、一応人化した龍の骨を「つい」折っちゃったと言った。

自分と母さんの差に涙目になった。

空を自由に飛んだ月。

人化した状態なのに気付かずに飛ぼうとしたら魔力でできた翼が生えた。

この世界、ご都合主義で塗れてるなあと思った。

でも、ビジュアル的にも良いし使い勝手も良かった。

母さん組み手でとうとう30分を超した。

と思ったらそろそろ本気でやろうかと言われ、5分に逆戻り。

月の最後にやっともとの状態に戻した。死んだ。

母さんは万能過ぎると思った月。

体術はもう大丈夫だと言われ、武器の方に移った。

最初はポピュラーな剣から。

筋力とかはチートだけど、それじゃごまかしがきかなかった。

時の流れが速いと思った。

母さんに使える武器は何？と聞いたら巢においてある武器は全部使えると仰った。

巢においてある武器・・・・・・・・・・と思った。

髪の毛を切った月。

体術の訓練のおかげで身体は動いた。

でも剣はまだまだ。

髪の毛がうつと惜しくなったので切った。

首元で切りそろえた。

母さんが切った髪をどこかへ運んでいった。

正直、不気味だった。

イリスが覚醒した月。

いつも通り頑張ってたらイリスに自分も使えと怒られた。

順調に人間らしくなっている。

仕方ないので魔法をイリスに使ってもらった。

任せたら、相当ストレスが溜まっていたのか噴火した。

天変地異が起きるかと思った。

空が変な色になってた。

こいつ機械じゃねえだろと思った。

キング・クリムゾン！！

「過程」は消し飛びー「丸々二年間試練を受けた」という「結果」だけが残る！！

ぶっちゃけ、その二年間は聞いてもつまらないものだし。

例えば、母さんにぼこぼこにされたとか、ぼろぼろにされたとか、蠟人形にされたとか、ぼろ雑巾にされたとか、イリスにボロクソに言われたとか。

そんな事思い出したくない。

二年飛んだ月。

なんとか武器を終わらせて魔法に戻った。

今なら神も倒せる気がしなくもない。

イリスが出番にピコピコ喜んでいた、と思う。

母さんに後試練いくつある？と聞いたらなぜか舌打ちをして「3セットと少し終わったのであと1セットと83個です」と言った。

全俺が泣いた。

絵的には幼女が泣いた。

今更だけど、首飾りに話しかけるのどうかと思った。

なので念話に変えた。

母さんが何かを作っているみたいだった。

ヒーハーな月。

最近夢見が悪い。

意識はあるのに周りが真っ暗で動けない、そんな夢。

鬱展開は基本無視しようと思に決めてるので気にしない事にした。

雷属性を集中的に頑張った。

プラズマなカッコいいのができるようになった。

「10万ボルト」は使えるようになった。

ちゅーとか叫んでやったら威力が上がった気がした。

エターなるフォーすぶりZARDな月。

氷を中心的にやった。

一番得意な属性なので気合いが入った。

雪を擬似的に降らせる事はできるようになった。

氷柱をファ ネルミサイルの如くホーミング付きで放てるようになった。

属性は機能を付けるのが難しい気がする。

フルオート雪合戦もやった。

分身を何体か作り、簡単な命令を与えて観賞。

可愛い幼女が無表情で一心不乱に雪玉を作り、相手にぶつけるのは、一種のホラーだった。

ダークな月。

闇属性を頑張った。

何ができるかよく分からないから、普通に属性無しと同じようにやった。

威力が上がった。

そっぴや何か作れたなーと思って武器を作った。

剣とか斧とか鎌とか、母さんに習ってたのでそれなりにかっこ良く使えた。

人化状態の背中にはイリスが常に翼を作っていた。

あえて何も聞かないでおいた。

目が覚めたら、一年経ってた………嘘だけど。

もうそろそろ聞くの飽きたでしょ？ねえ飽きたよね？

そろそろ戻りたいんだが。

ダイジェストおおおお。（後書き）

ここで報告。

更新速度が大幅に下がります。

なんとか7月までには一章（今の）を終わらせたいので殆どないという事は無いと思います。

ブーイングが来る予感。

関係ないですが、英語ってどんな風に勉強すれば良いんだろう、と思っんです。

感想欲しーな。ください。

ごめんなさい。今年無理そう。

長い間というか、1ヶ月くらい続きが出せなかったんですが、何か今年中に出すのは無理そうです。

いいところ？なのに！

理由はまあ、勉強というか、ぶっちゃけ受験です。

作者はあほーなので非常にやばいのです。高校は公立じゃなきゃいけないのです。私立は駄目！。

英語は死亡。国語は死去 数学は転落死 理科はテクノブレイク
社会はお悔やみ申し上げます。

ということで一旦、停止します。でもたまに来るかもしれません。

殴）あ、英語の良い勉強法を教えてくださいませんか（殴

忘却（前書き）

本編にはあまり関係しないです。

今年の投稿はもう無いと思う。

忘却

その瞳にまず映ったのは白い天井と壁。そして清潔感のある白いベツド。どうやら病院らしい。
最後に自分の身体を見た。

足が、無かった。

いや、無かったというのは少し間違いかもしれない。
多少は残っているからだ。だが、太股の下半分からは消えている。
幸い、麻酔かなにかのおかげで痛みは感じないし、その断面は包帯などで包まれていて見えない。

どうしてこうなったんだろう、とおぼろげな記憶を辿ってみる。

たしか、学校の帰り道だったはずだ。

その日は妹の受験の合格祝いで家族が旅行へ行つて、久しぶりに羽が伸ばせると急いで帰っていた。

俺が旅行についてたらギスギスした雰囲気になるからしょうがないな、と割り切り、普段あまり出来ていないゲームとかをしようと思った。

ぼんやりとしたまま歩いてそのまま交差点をわたろうとして……

……

そっからの記憶が無い。交差点わたってたんだからトラックかなんかに轢かれてもしたんだろうな。

うわ、家族旅行中じゃん。災厄だ。また妹から死ねやら消えろやら言われる。

言われ慣れてるけど、昔あんなに………あれ？

あんなに、どうしたんだっけ。思い出せない。

あれか、記憶喪失という奴かな。

まあ、ろくな記憶じゃないだろうな。

さて、足が無いから立てない。

車いすは少し遠いな。なんとか行けるか。

ゆっくりとベッドから滑り落ち、床をはうようにして車いすに近づく。

後もう少し、という所で声がかかる。

「あの、大丈夫ですか？」

顔を上げるとそこには俺が来ているのと同じ、白いものをまとっている女性がいた。おそらくは病人だろう。

さすがにきついから手伝ってもらうか。厚意を受け取ろう。

「車いすに乗りたいですけど、少し遠くて。手伝ってもらえませんか？」

彼女は頷き、車いすを近づけた。

そのあと支えてもらいながらなんとか車いすに乗る事ができた。
1
人じゃ無理そうだったな。

「有り難うございました」

どういたしまして、と言いつつ彼女は去っていった。今更ながら、ナスやらを呼んで手伝ってもらえば良かったと気付く。悪い事したかな。

乗ったは良いがどこへいこう。
窓から入る光は茜色、夕方だ。ちょうど良い、夕焼けでも見に屋上へ行こう。

車いすの病人への配慮か、階段ではなくスロープだったのでそのまま屋上へと向かう。

腕がきつくなってきた、と思ったらさっきも見た茜色が見えたので氣力を振り絞って登りきる。

屋上には誰もいなかった。ただ、ドラマかなんかで見るような、白いシートなどがまるで生きているみたいに風になびいていた。

柵へ近づき、街を一望する。

知っている、しかし見た事の無い景色が広がる。

とても、綺麗だ。

何か、もう満足しちゃったな。

正直これ以上家族に迷惑はかけたくないし、妹の高校はそれなりに金がある。

俺のような金食い虫は退場するべきだ。

それに、家族の和を乱したくない。

柵に更に近づく。なんとか行けそうだ。

身を乗り出そうとして、聞き慣れた声が入った。
しかし、その呼び方をされた記憶は無かった。

「お兄ちゃん!!」

消えた過去の記憶の中ではそう呼ばれていたのかな。
まあそんなことはいい。俺の顔なんて見たくもないだろうに、
なん

で来ているんだろう。

駆け寄って来る音が聞こえる。

「なに、しようとしてるの」

屋上で身を乗り出してなにをやるかってなあ。そんなに多くないだ
ろう。

まあ、ね。

「別に、何でもいいだろう」

「まさか、とびおりようとしてるの!？」

さすが我が優秀な妹だ。すぐに当てられてしまった。

「これ以上迷惑かけられないしな。お前も嬉しいだろ？いつも死ね死ね言ってたし」

黙る妹。凶星かな。

日が沈んできた。沈み終わる前には逝こう。

「高校楽しめよ。青春してこい。じゃあな」

腕に力を入れ、柵を越え、その先の端まで行く。足が無くても大丈夫そうだ。

「待ってよ」

待たない。もう行く。

そして飛んだ。浮遊感を感じた後、大きな衝撃に襲われ、気を失った。

1人にしないで、と聞こえた気がした。

忘却（後書き）

都合良く、消えてしまった記憶。
駄文で意味不明なのは仕様です。

とりあえず、英語がテストで70点以上とれました。
前が50点代だったので・・・

色々勉強法を教えてください有り難うございます。

ああ、でも偏差値を後5以上増やさなければ。

作者自身が飛び降りたいなああああああ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6063k/>

異世界我龍転生記

2010年10月8日13時11分発行